

自 己 評 価 票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営 1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	NPO時代の運営理念を継続し取り組んでいる。	○	新体制になり、運営者、新しい職員と一緒に理念について話し合う機会をつくりたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年度初めに、グループホームの立ち上げた経緯、NPO時代の運営理念について説明をする。	○	新体制になり、理念についても変更が必要か、現状で何を求めているか、話し合う機会をつくりたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族は契約時や面会時にお話し、地域の方々には住民説明会(移転決定時)に話し合いをしてきた。	○	家族や地域の方々に参加していただけるような行事を行ったり、地域行事に積極的に参加していきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	訪問介護員2級課程の実習生や運営推進会議を通じて、民生委員の協力等に努めている。	○	外気浴等を通じて、挨拶から顔を覚えていただき気軽にお話できる関係をつくりたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年2回の一斉清掃、自治会の一員となっており、回覧板回しに利用者が同伴する場合もある。	○	一斉清掃は職員のみでの参加で、地域行事に利用者、家族が参加できるように努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	同地区の高齢者の相談を受けることもある(介護保険サービスについて等)。	○	行政(一関地区広域行政組合)からの依頼で、『ケアケア交流講座』に取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	数回に分けて、自己評価の勉強会を行い、外部評価について話し合いを重ね、理解に努めている。	○	運営者を含め、初めて取り組む職員についても外部評価について目的等、話し合う機会をつくりたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は外部評価前に説明し、公表時に結果を渡し、外部評価の目的等の理解に努めてきた。	○	外部評価についての説明を行い、利用者、地域の方々が参画できる会議にしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員(今年度11月実施)の訪問がある。	○	ホーム行事を積極的に案内を出していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	同法人事業所で市社会福祉協議会を招いて、勉強会を実施する。	○	継続的に勉強会の内容をホームで話し合う機会をつくりたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティングの場で資料配布をする。	○	職員だけでなく、利用者、家族、地域の方々と一緒に関連法等について話し合う機会を定期的につくりたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みの時点からグループホームについて説明を行い、入居後も報連相に心掛けている。	○	グループホームについての理解に努め、利用者視点で不安、疑問を少しでも解消できるよう努めていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的開催する運営推進会議や明生園福祉オンブズマン制度について説明している。日常生活の中でも話し合いできる雰囲気づくりをしている。	○	運営者(統括責任者)の定期的な訪問で意見交換や外部者と交流を持つ機会を設けていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月『ほっとスマイル通信』を通じて、各担当より報告。緊急時は電話で対応している。	○	家族に応じて、どこまで報告が必要か？ 確認しておく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的開催する運営推進会議や明生園福祉オンブズマン制度について説明している。面会時に、何かないか？ 聞く機会をつくっている。	○	管理者に限らず、職員が気軽に話せる雰囲気づくりに努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新理事長を囲む会や統括責任者と情報交換の場を設けている。	○	職員ミーティング等で、定期的に情報交換できる機会をつくりたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通院や行事にあわせて、勤務を変更している。	○	利用者、家族と今後の予定を聞きながら、要望に添えるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年3月に大きな異動を行ったが、利用者への説明が不十分だった。	○	統括責任者と情報交換を行い、利用者、家族、職員の様子を報告できる体制を強化していきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	明生園と協力し、新任研修や岩手県認知症高齢者グループホーム協会の定例会に積極的に参加し、情報交換に努めている。	○	統括責任者と連携を密にし、新任研修に限らず全職員を対象とした研修を企画、実施していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県認知症高齢者グループホーム協会の定例会を通じ、情報交換等に努めている。	○	職員と市内のグループホームの見学等、勉強する機会をつくっていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員から、アンケートを実施し勉強会を行った。	○	運営者やスーパーバイザー等と話し合う機会を積極的に設けていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	行事や定期的に訪問していただき、利用者の状態把握だけでなく、職員の勤務等について話をしている。	○	グループホームについての意識(知識)や役割等を日常業務の中で話し合いできる雰囲気づくりをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケース的には、家族や担当介護支援専門員からの相談が多く、本人自身からの訴えが少ないものの、初回訪問(面談)時に、本人から疑問や不安を聞くように努めている。	○ 本人がグループホームに対する不安の軽減に努め、家族中心の話し合いにならなようにしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の目の前で話しづらい場合は、場所を変えて話を聞いたり、電話等で要望や不安を聞くように努めている。	○ 利用したい経緯、家族介護について等、現状だけでなく今後の要望等についても話を重ねていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険制度についての説明や、認知症高齢者グループホーム待機している間、または現在、必要としているサービスが何か？等、他事業所とも連携しながら話を進めている。	○ 申し込み順に限らず、本人、家族の状況や他利用者との関わり等を見極め、最優先課題をアドバイスしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初回訪問(面談)後、家族と一緒にホームへ見学を勧めている。今からサービス開始、と決めるのではなく、ホームでの表情や、他利用者とのコミュニケーション等についても把握できるように努めている。	○ 見学第一とし、初回訪問(面談)後にホームへ足を運んでもらえるよう声掛けし、グループホームの雰囲気を把握してもらえるよう努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護をする、される関係だけでなく、見守り介護を中心とし個々の能力に応じた関係を築いている。	○ 業務に流される一日でなく、ゆっくり話ができる時間をつくり、喜怒哀楽を共有できる関係を構築していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時だけでなく、『ほっとスマイル通信』、電話等を利用し、報連相を実施している。	○	家族の立場になって、情報を共有できるよう関係を築き、面会時に一方的な話で終わらず、心身共にリラックスできるよう心掛けていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームに預けて終わり…でなく、行事や運営推進会議等に積極的に声掛けしている。面会時に、居室でゆっくりお話できるよう配慮している。	○	面会時、家族と職員の会話の時間に多くとらず、本人、家族と一緒に過ごしていただく時間を大切にしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や面会、家族宅に訪問することもある。	○	面会時等を利用し、家族や日常の生活の中で本人に聴く機会を多く持ちたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が声掛けをし、お互いできない面をカバーしている(食後の片付け、洗濯物たたみ等)。	○	職員から進めるのではなく、利用者同士話し合いできる雰囲気づくりをさりげなくしていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も相談を受けたり、不定期ではあるが家族から連絡をいただくこともある。	○	定期的に今後の生活について聴く機会を家族だけでなく、利用者とも持てるよう心掛け、継続してお付き合いできるように支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から希望を聞き出そうと努めているが、遠慮して言わないこともあり職員間で検討することが多い。	○ 日常の会話や面会時の家族からの情報収集を大切に、利用者の希望、意向を具体的に把握するよう努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホーム利用前の様子を初回訪問(面談)時に利用者、家族から聞いたり、見たりしている。	○ あらためて聴くと構える方も多いので、日常生活の場面ごとに話題を提供し、情報収集に努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	排泄サインや仕草、会話が成立するよう心掛けている。	○ 会話から得る情報と、レク活動等を通して本人の思考能力を理解し、心身状態等の把握に努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員を中心とした課題を立案し、家族と話し合いを行っている。	○ 本人を交え、より具体的な希望を盛り込んだ介護計画を目指したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に気付いた時点で、見直しや家族に相談し、計画を見直している。	○ 期間に限らず、普段の心身状況や家族(知人を含め)からの情報交換を密にし、常に新たな視点を持つように心掛けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に行動だけでなく、会話等の記録にも努め、職員の検印チェックを行っている。	○	ケース記録の書き方を勉強したり、他事業所と情報交換をし、本人・家族等の情報を共有できる記録を目指したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同法人の事業所と連携し、家族の要望を取り入れている。	○	利用者本人が、いま何を必要としているか？ を常に把握できるよう心掛けていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護理容は本人希望で実施している。また、お茶や紙芝居ボランティアの方は、自ら進んで来ていただき定期的に実施している。	○	民生委員、関係機関(特に警察、消防)との連携を強化していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人希望で退去後、担当介護支援専門員と民生委員と数回にわたって、話し合いをしたことがある。	○	入居前の担当介護支援専門員との情報交換や他事業所との話し合いを持つ機会をつくり、退去後の支援をスムーズにできるよう努めたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用相談が多い。	○	『要支援2』に限らず、権利擁護や地域包括支援センターと協働を強化していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは別に、今までの医療機関を継続できるように支援している。	○	原則、通院は家族にお願いしているが、職員も同伴し連絡調整を密にし、入居前後も安心して医療支援が受けられるよう心掛けていきたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科受診の際、利用者とは別に相談に乗っていただいたケースもある。	○	医師にも、グループホームに訪問していただき、より具体的な関係を築いていきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回(緊急時は電話対応)、看護師の配置により利用者の健康管理を支援している。	○	状態変化や日々の医療面について、情報交換、情報共有に心掛けていきたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	担当医師、家族と話し合いを重ねて、情報交換を行ってきた。	○	入院後も面会に行く等、医療機関との情報交換や本人、家族の要望を最優先に考え、安心して生活できるように支援していきたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ経験なし。	○	終末期、利用者、家族の希望を最優先に考え話し合いを繰り返していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだ経験なし。	○	他事業所のケースを聞きながら、日常の会話からも利用者の気持ちを汲み取り、ケース記録に残していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去前に、家族、民生委員を中心に話し合いを重ね、利用者本人が負担にならないよう配慮してきた。	○	本人の希望だけでなく、ご近所、他事業所、担当医師等、関わる方々と連携を強化していきたい(日ごろの生活から関わりを持つように心掛けていきたい)。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の能力に応じた声掛けを行っている。	○	職員同士でも声掛けをチェックしたり、定期的に自分たちの声掛けについて見直す機会を設けたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	会話が成立するよう具体的に支援したり、本人の表情観察もあわせて行っている。	○	会話から引き出すことが困難な場合やコミュニケーション能力についての勉強会をしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション、行事等、本人希望にそって支援している。	○	その日のレクや行事について相談できる機会を定期的に設け、利用者、家族参画型で日々を過ごしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの店を聞か、慣れた介護理容を希望している。敬老会では化粧して参加した。	○	身だしなみとしてウィンドウショッピングやお化粧品等、メリハリをつけた支援をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員(実習生)と一緒に食卓を囲み、嗜好等を確認。食後も、洗い方や拭き方を分担して行っている。	○	嗜好や摂取量等をチェックし、日々の生活に活かし、体調を確認しながら準備、片付けをお願いしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	メニューづくりを利用者に参加してもらい、好みのものを出す等、楽しい食事づくりに心掛けている。	○	誕生会等の行事食に限らず、普段から利用者の嗜好を聞きながら、メニューを組み立てるよう心掛けていきたい(定期的に栄養士のチェックをお願いし、栄養管理にも努めていきたい)。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	24時間の排泄チェックを行い、排便パターンの把握に努めている。本人の状況に合わせておむつを本人、家族と相談し取り入れている。	○	排泄チェックを元に、課題を分析し今後の排泄支援の参考資料に役立てていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日実施しているが、時間が業務優先となっている。	○	入浴希望調査を実施し、希望時間帯等、利用者の生活パターンにあわせた支援をしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	顔色等を見ながら休ませたり、夜間は入眠誘導を行い、ゆっくり休めるよう声掛けをしている。	○	体調を聞いても、会話がうまくできない場合もあるので、日ごろから顔色、体調チェックをしていきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物やレクリエーション等、利用者の訴えに耳を傾けている(得意分野を活かせるよう支援している。裁縫、畑仕事、家事等)。	○	四季折々が感じられるよう心掛け、利用者の思い出を大切にしていきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を管理している方は、買い物の際にご自分で支払いをしており、見守りを行っている。	○	買い物に行った際、お金を渡してご自分で支払いが出来るよう見守り、支援していきたい。個人でお金を管理している方は、家族の協力もいただきながら残高確認を定期的に行いたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム内に限らず、外で活動(畑仕事、外気浴等)できる支援をしている。	○	本人の能力に合わせ、希望を聞く機会を増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	体調や天候を見て、日帰りドライブ等を支援。家族の面会時も、外出しないか？ 声掛けを行っている。	○	ふるさと訪問等、利用者、家族の希望を聞き、担当医師等と連携しながら進めていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望で電話を掛けたり、家族、知人からの電話を取り次ぐ場合がある。	○	手紙や誕生会等の行事の招待状を出していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の面会時にご一緒に来ていただいたり、面会時に声掛けを行ったり、お見送りをしている。	○	差し支えない範囲で交友関係をお聞きし、面会に来よう働きかけをしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常の引き継ぎの中で、身体拘束についての情報交換を行っている。	○	運営者、利用者、家族を交えて身体拘束についての勉強会を開催したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者一人ひとりの所在確認を徹底し、玄関等、開放できるよう支援している。	○	利用者がゆっくり過ごせる雰囲気づくりを大切にし、鍵が必要か(必要な場合)、関係者と話し合いをしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室で過ごされる場合も、定期的に声掛けを行い、所在や様子確認を行っている。	○	大きな声で呼び掛ける等、びっくりするような言動を慎み、他利用者も安心して生活を送れるよう配慮したい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人のために弊害を受けないように、折を見て他利用者に説明をしている。	○	利用者、家族と話し合いをし最低限、必要な物品を用意する等、今までの生活歴を大事にしていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	『ヒヤリ・ハット報告書』や『事故報告書』を活用している。また、他事業所の『事故報告書』を閲覧している。	○	勉強会(KYT等)を重ね、利用者の心身状態に合わせた対応を考えていきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師と情報交換を行っている。	○	年に一度、普通救命講習を実施(利用者、家族、地域の方々)。訓練を定期的に計画、実施していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	12月より毎月、避難訓練デイを設ける。	○	年に1回以上、地域の方々と一緒に避難訓練ができるよう働きかけをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事故報告がある場合は、家族に電話(面会時に報告の場合もある)にて報連相を行っている。	○	朝夕の引き継ぎ時に、事故についての報告を受け、ミニカンファレンスを実施する等、家族等の説明で終わるのではなく、再発防止策を検討する機会を設けたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	午前、午後にバイタルチェックを行い、朝夕の申し送りを密に行っている。また、ケース以外で、職員の連絡ノートを活用している。	○	休日明けの職員や、異変(事故)時の連絡方法等を事前に打ち合わせしておき、情報の共有に努めたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の管理を行い、服薬支援を行っている。	○	内服薬の一覧や効用、副作用について勉強会をしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝食時、ヤクルト。昼食時、ヨーグルト。おやつ後、腹部マッサージ等を行っている。	○	看護師や家族と相談し、排便コントロールについて情報交換をしたり、食事療法(食物繊維や水分補給)を心掛けている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている。	○	協力医療機関(歯科医院)と連携し、定期的に歯科検診を実施していきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の配膳等を利用者にやっていただいているが、声掛けを行いバランスを取っている(食事摂取が気になる利用者はチェックしている)。	○	食が細くなった方は、食事摂取量をチェックや体重測定をしたり、栄養士に定期的に栄養指導をいただくよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRS A、ノロウイルス等)	ポスターを掲示し予防に努めている。手洗い、うがいを励行している。	○	看護師や利用者、家族を交えた勉強会を開催していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は毎日。歯ブラシ、コップ類は日曜日(夜間)に消毒している。	○	食中毒について勉強会を定期的実施する等、台所周りだけでなく、トイレや洗面所等、衛生管理が必要と思われる項目もチェックしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	生け花ボランティアの協力をいただき、玄関に花のある生活を続けている。	○	玄関ベンチやすのこを設置する等、利用者側の視点で見直しをしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	すだれを置いたり、壁画で季節感を感じてもらおうよう利用者と一緒に作成している。	○	昔とった杵柄で、利用者から話を聞き、慣わしや風習を取り入れるようにしていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は思い思いで居場所をつくり、利用者同士ゆったり過ごしている。	○	職員から働きかけをしなくても、利用者同士から自発的に過ごせるよう、環境面で雰囲気づくりをしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居契約時、入居後も使い慣れたものの相談を行い、衣替えなども協力していただいている。	○	日常の様子を撮影した写真や本人の作品だけでなく、馴染みの物品を用意したり、本人、家族希望を取り入れていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室内の換気扇を活用したり、一人ひとりに合わせた温度設定を行っている。	○	室内暖房の調整や夏季期間の温度調節を、本人の体質や体調に合わせて支援できるようにしていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、浴室、トイレは手すりを設置している。	○	外への段差があり、見直していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの訴えに耳を傾けている。	○	ADL等の低下しても、自分の能力に応じた支援を行っていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	お天気がよいときは、外気浴を楽しんだり、畑仕事ができるように心掛けている。	○	積極的に声掛けをし、地域の方々と交流できるスペースづくりを目指していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・平成14年10月、NPO（特定非営利活動）法人で開所。平成19年4月、社会福祉法人つくし会と経営統合。
- ・平成17年 3月、家族の協力をいただき三関小沢地区に新築移転。
- ・立地に恵まれ、買い物、医療機関へのアクセスがよく、利用者と一緒にいく機会が増える。
- ・家族的な雰囲気を大切に、利用者の能力に応じた役割を持ってもらうことでお互い必要とされながら支え合って暮らしている。
- ・職員は、利用者の笑顔を引き出すことに自然な感じで支援している。
- ・岩手県認知症高齢者グループホーム協会の事務局をしており、みなさんのパイプ役をしている。